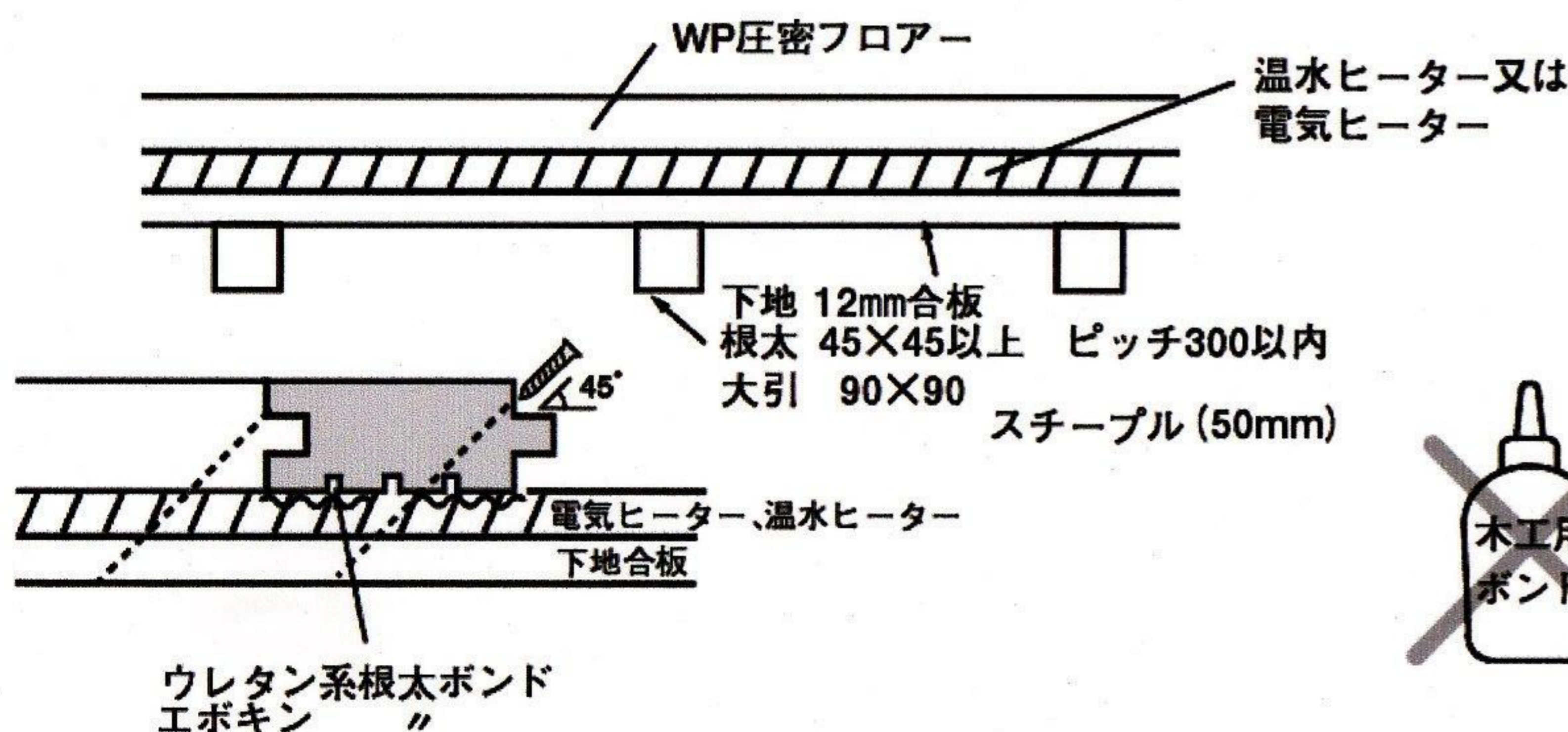


[ウッドピア圧密フローリング]

床暖を使用される時の施工方法

1. 床暖ヒーターの下地はヒーターメーカーの指定された方法で施工して下さい。
(一般的にはコンパネ等の12mm厚以上の合板を下地として敷き詰めて)
(その上に電気又は温水ヒーターを敷く事が多い。)
2. 床根太の含水率は15%以下のものを御使用下さい。
3. ウッドピア圧密フローリングは十分な人工乾燥により含水率を下げて生産していますので開梱後はすぐに仮並べをし、色相、節が室内に均等になる様にして下さい。
4. 夜間は室内の湿度が上昇し水分を吸収し板巾が微妙に大きくなりますので出来るだけ開梱後はその日の内に張り終えて下さい。
5. すき間のとり方(一般的な木造の室内として)
 - ・湿気の多い時期(6~8月、雨が降る時期)
フローリングの間は少しキツイ目につめて張って下さい。(ゆるいと床暖時にすき間が1.5mm以上に開く事があります。)
 - ・乾燥している時期(10月~3月、晴れた日が続いた時)
フローリングの間は軽く押しあてて(すき間は開けずに)張って下さい。
余りキツクしめすぎると湿度の高い時期に盛り上がる可能性があります。※1ヶ年過ぎると木が落ちつきます。
 - ・長手方向での継ぎ手はキッチリつめて張って下さい。
6. 接着剤と釘の打ち方
 - ・下のヒーターには接着剤とスチープル(又はフローリング用スクリュー釘)の併用して張って下さい。
 - ・接着剤の種類→エポキシ系、ウレタン系の根太専用ボンドを使用し、木工用酢ビ系ボンドは使用しないで下さい(床鳴りの原因となります)。
 - ・施工後→すぐに上に乗ると床が微妙にたわむ為、接着不良が生じ床鳴りの原因となるので、少なくとも一晩は上に乗らないで下さい。



[床暖試運転前のチェック事項]

1. 温水ヒーターによる床暖の時

- ・温水温度は中温(55℃)以下にセットして下さい。
- ・初期立ち上り時の温度も60℃以下にセットして下さい。
- ※機器メーカーに必ず設定値を確認し、設定値を変更して下さい。
- ※温度が高い程、床暖時のフローリングのすき間が大きくなります。(標準は1.5mm以下です。)

2. 電気ヒーターによる床暖の時

- ・コントローラーの設定温度を48℃以下にして御使用下さい。

[床暖を使用時のフローリングの変化について]

1. 床暖を使用して数日経過すると徐々にフローリングにすき間が出来てきます(1.0~1.5mmが、床暖の使用をやめると2ヶ月位ですき間はほぼ床暖使用前にもどります。木が水分の出入で調整しているあかしです。)
2. 圧密加工は表面をローラー圧縮をしている為、使用している間に表面にたまに極細い小ヒビが入る事がありますが、表面のみでそれによる強度が落ちる事はありません。
3. 「むく」材なので、木の性質には多少の違いがあり、床暖時のすき間にむらが出る事があります。
4. 床暖時に表面に座布団、ジュタン、カーペット等を敷くと、熱がこもり、板のすき間が大きくなったり、表面の小ヒビが発生しやすくなるので上に敷かないで下さい。
5. フローリングの裏面より室内側の上面が乾燥する事が多いのでフローリングがカップ状に少しそる傾向がありますが、木の水分を放出吸収する事によりおこる事で正常です。
6. 圧密フローリングは基本的に水をきらいますので、塗装商品でも水濡れした時はすみやかにふき取って下さい。